

水道水というと、やはり気になるのは「塩素」。

水道水の

塩素

の役割って

ナニ

？

菌の増殖抑制

持続性

細菌の消毒

微生物の消毒



そのままでは飲めない原水を安全な水道水にするために、必要な塩素。今号では、水道水にとって重要な役割を果たす塩素についてお話しします。

「日本における塩素の歴史」

近代水道が整備される前は、海外から持ち込まれたコレラや赤痢、腸チフスといった水を介して感染する感染症が度々発生していました。そこで明治に入り、政府は感染症対策として浄水施設の建設を進めるようになりました。

日本では、大正10年に東京と大阪で初めて塩素消毒が始まりました。その後、昭和32年に現行の水道法が施行され、塩素消毒が義務化されたことにより、水を介して感染する感染症は大幅に減少し、この消毒方法が現在まで引き継がれています。

「暮らしに身近な塩素」

塩素と聞くと何を思い浮かべますか？ プールにおいて、漂白剤のイメージなどもあるのではないのでしょうか。実は塩素はほかにも海水中や私たちの体内など、色々なところに形を変えて存在しています。また、塩素は水に溶けやすく、強い酸化力もあるので、消毒剤として使われています。水道水の消毒に使われているのは、「次亜塩素酸ナトリウム」という液体状の塩素剤です。